

平成27年 3月12日

3月定例所長会見における発電所長挨拶内容

- 所長の横村でございます。
- 福島第一原子力発電所の事故から4年が経過いたしました。が、未だ、福島県の皆さま、新潟県の皆さま、そして広く社会の皆さまに、大変なご心配とご迷惑をおかけし続けておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。
また、福島第一原子力発電所の排水路データに関して、公表やご説明ができておらず、情報公開を行うための感度がまだまだ不足していましたことを深くお詫びいたします。
- 本日、私からは2点お話しをさせていただきます。
- まずは、原子力規制委員会による地質・地盤に関する現地調査の実施についてです。
ご案内のとおり、来週17日に原子力規制委員会による地質・地盤に関する現地調査が行われます。今回の調査は、昨年10月に引き続き行われるもので、3回目の開催となります。
今回は、発電所敷地内1～4号機側における立坑調査の状況、発電所敷地外の刈羽村村内におけるトレンチ調査の状況及び敷地内外において採取したボーリング試料につきまして、ご確認いただく予定としております。
これまでに得られたデータに基づく当社の評価につきましては、現地調査までの間に原子力規制委員会並びに原子力規制庁へご説明をさせていただいたところですが、「発電所周辺に分布する古安田層は約20万年よりも前に堆積した地層で、敷地内の断層は約20万年前以降の活動はない」とする私どもがこれまでにお示ししております見解を否定するようなものは見つかって

おりません。

現地調査においては、しっかりとご説明をさせていただくとともに、審査会合へも引き続き真摯に対応してまいります。

○ 次に、発電所の安全対策への取り組み状況についてです。

当発電所においては、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、あの様な事故を二度と起こしてはならないという強い決意の下、様々な安全対策に取り組んでいるところです。

安全対策については、津波に対する備えとしての浸水防止対策やフィルタベント設備など、新規規制基準に要求のある対策は勿論のこと、自主的な安全対策についても鋭意取り組みを進めております。

本日は、この後、担当者より主な取り組みをご紹介しますが、代表的なものとしては、ガスタービン発電機車をより迅速に起動させるための遠隔操作化、通信設備に対する信頼性向上を目的とした無線設備の耐震強化などの工事を着実に進めているところです。

発電所においては、所員一人ひとりが安全を追求していくことに終わりはない、昨日よりも今日、今日よりも明日の安全レベルを高めていくという高い安全意識をもって、しっかりと発電所の運営に臨めるよう今後とも尽力してまいります。

また、発電所の安全対策への取り組みにつきましては、今後とも、地域の皆さまにご理解をいただけますよう様々な形で丁寧にご説明を続け、ご安心いただけるように努めてまいります。

○ 本日、私からは以上です。

以 上